

重要なお知らせ

1999年4月
ヤマハ株式会社

1) ルータの自動発信機能について

RTA50iをルータとしてご使用になる場合には、自動発信の機能をよくご理解の上ご使用ください。RTA50iをパソコンやLANに接続した場合、RTA50iはパソコンのアプリケーション(メールソフト、ブラウザなど)が送信するデータやLAN上を流れるデータの宛先を監視し、本体に設定された内容に従って自動的に回線への発信を行います。そのため設定間違い、回線切断忘れ、ソフトウェアが定期送信パケットを発信していたなどの場合には予想外の回線使用料やプロバイダ接続料金がかかる場合があります。次のようなケースでは、通信履歴や課金額を時々調べて、意図しない発信がないか、また課金額が適当であるかどうかにご留意ください。

RTA50iを使い始めた時
パソコンに新しいソフトウェアをインストールした
ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続した
RTA50iのプログラムをアップデートした、変更した
その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じたなど

自動発信については下記URLもご参照ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RTA50i/FAQ/unknown-connect.html>

2) 工場出荷設定値の変更

Rev.3.03以前のファームウェアのRTA50iでは、工場出荷設定で全てのアナログポートは「話中の着信通知」を「する」でしたが、お買い上げ製品からは「話中の着信通知」が「しない」に変更されました。従来ファームウェアでは、話中に別のアナログ着信があると受話器から着信を知らせる音が出ましたが今後は出なくなりますので、擬似コールウェイティング機能をご使用になる場合には、「話中の着信通知」を「する」に設定を変えてお使いください。特に、従来製品の設定内容などを流用して設定を行なう場合等には注意が必要です。

3) 「RTA50iかんたん設定ページ」における仕様変更について

Rev.3.03.28のリビジョンのプログラムからは、次の設定に関する仕様に変更されました。RTA50iかんたん設定ページからプロバイダ登録を新規に行うと以下の条件が自動的に設定されることにご注意ください(かんたん設定ページを使用せずにコンソールコマンドだけで設定を行っている場合には当てはまりません)。これらの条件を変更したい場合には設定の変更が必要です。

- ・課金制限
課金値の上限を決めておくことで、通信料金の使いすぎを防止する効果があります。この設定金額が1万円に自動設定されます。(コンソールコマンドではpp account threshold 10000に相当) またこの金額は「プロバイダの登録」-「オプション設定」-「課金の制限」画面で適切な値に設定することをお勧めします。

この金額を越えた時点で発信ができなくなりますので、さらに発信を行うためには課金値をクリアしてください。
- ・強制切断タイマ
接続を開始してから連続9時間を経過すると強制的に通信を切断し、知らずに回線がつながったままになるのを防ぎます。
(コンソールコマンドでは isdn forced disconnect time 32400 に相当)
- ・再発信抑制タイマ
切断後、次に発信するまでの抑制時間を設けることで、頻繁に発信を繰り返すのを緩和します。これが15秒に自動設定されます。
(コンソールコマンドでは isdn call block time 15 に相当)

4) FreePPPでのモデム初期化コマンドの設定について

取扱説明書P.31に誤記があります。Macintoshをお使いの方でFreePPPによりダイヤルアップする場合、正しくは以下のように設定してください。

同期 64kbit/s で接続する場合のモデム初期化コマンド = **AT&Q1&D0\$M0**
同期 128kbit/s で接続する場合のモデム初期化コマンド = **AT&Q1&D0\$M1**

5) ドイツ RVS 社の RVS-COM 製品に対応

RVS-COM 製品をお使いになる場合、そのバージョンが 1.60 またはそれ以降であれば、RTA50i 側に特別な設定をすることなくそのまま RVS-COM の機能をお使い頂けます。バージョンがそれ以前の場合には、以下に示す手順により、RVS-COM 側を対応させてください。

RTA50i の RVS-COM 対応関連についての最新情報は、YAMAHA ISDN ホームページの RTA50i に関するページを参照してください。(本紙は 1999 年 4 月現在の内容です)

URL <http://www.rpro.yamaha.co.jp/RTA50i/index.html>

RVS-COM 製品は、国内ではメガソフト株式会社により販売されています。製品自体のインストール方法、ご使用方法、サポート等についてはメガソフト株式会社にお問い合わせください。

URL <http://www.megasoft.co.jp/>

必要な手順 RVS-COM Lite Ver 1.41 及び 1.43、RVS-COM STANDARD Ver 1.40 をご使用の方が対象となります。RVS-COM Lite または RVS-COM STANDARD をまだパソコンにインストールされていない方は、まずそれらの製品のインストールを済ませてから下記の作業を行なってください。

RVS-COM Lite Ver 1.41 及び 1.43 をご使用の場合

1. バージョンを確認します。バージョン情報はスタートメニューの [プログラム] - [RVS-COM Lite] - [情報] から知ることができます。
2. メガソフト株式会社のホームページ下にある、ヤマハ用の「アドオンパック」をダウンロードしてください。
3. ダウンロードしたファイルをダブルクリックするとパソコンへのインストールを開始します。インストール画面に従ってパソコンの設定を行ないます。
4. RTA50i を認識させるために、RVS-COM のインストールウィザードを実行します。事前に RTA50i の電源を入れ、パソコンと接続された状態で行なってください。

RVS-COM STANDARD Ver 1.40 をご使用の場合

1. バージョンを確認します。バージョン情報はスタートメニューの [プログラム] - [RVS-COM STANDARD] - [情報] から知ることができます。バージョン情報に「サービスパック 2」(SP2) とある場合には手順 4 から始めます。
2. メガソフト株式会社の上記ホームページ下の「User's」 - 「UPDATE ファイル」をクリックして RVS-COM の項にある RVS-COM STANDARD 用の「サービスパック 2」を説明に従ってダウンロードします。
3. ダウンロードしたファイルをダブルクリックするとパソコンへのインストールを開始します。インストール画面に従ってパソコンの設定を行ないます。
4. メガソフト株式会社の上記ホームページ下にある、ヤマハ用の「アドオンパック」をダウンロードしてください。
5. ダウンロードしたファイルをダブルクリックするとパソコンへのインストールを開始します。インストール画面に従ってパソコンの設定を行ないます。
6. RTA50i を認識させるために、RVS-COM のインストールウィザードを実行します。事前に RTA50i の電源を入れ、パソコンと接続された状態で行なってください。